

# ♪ 月わが家のアイドル ♪



**新堂**  
久保 冨虎ちゃん（1歳）  
1才おめでとう♡元気にすくすく育ってね♪



**昭和町**  
越智 太郎ちゃん（0カ月）  
元気に育ってね！



**山中田町**  
杉本 絆和ちゃん（6カ月）  
笑顔で元気に育ってね。  
父も母も兄も絆和が大好きです。

## 宛先

5 8 4 - 8 5 1 1

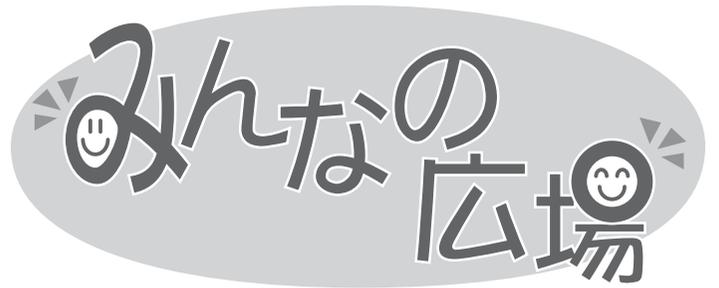
住所・氏名(ふりがな)・電話番号

富田林市役所  
情報公開課広報係

常盤町1番1号

わが家のアイドル（対象年齢は4歳未満、兄弟・姉妹と一緒に写っている写真でも可）は、写真の裏に、**名前（ふりがな）と撮影時の年齢（月齢）**を記入し、**メッセージ（20字程度）**を添えて、封書で左記の宛先まで応募してください。

なお、今応募された場合、掲載は約2カ月後になります。



## 川柳

富柳会 池 森子選  
今月の宿題「引き分け」

秀句 〓  
お互いに出過ぎた角を削り合い

向陽台 佐々木 七朗  
△選評Vお互いに出過ぎ、言い過ぎ、自己主張、さてお互いに我が主張が強くなる度に角はアンバランス、故に意見と会話、そして削り合う必要に迫られたら、それから結果は：出過ぎた所に折り合いをつけて：乾杯!!

ジジとババどっちも好きと返す知恵

小金台 栗田 昌  
引き分けた時から芽生えてる鬨志

宮町 山中 淳子  
引き分けるコツを覚えた嫁姑

甲田 岸本 慶子  
ライバルで心の友で五十年

梅の里 原 洋子  
便利さの裏に不便が待っている

楠風台 正木 浩  
夫婦戦今日も負けたよ妻の口

東板持町 洲濱 耕咲  
引き分けて一対一になる暮らし

選者 吟  
※8月号は「短歌」を掲載します（なお、応募は6月30日で締め切りしました）。

川柳・短歌・俳句は、それぞれ別のがきで応募してください（1人各5点まで）。市内在住の人で未発表のものに限ります。作品の漢字や氏名には必ずフリガナをつけてください。

9月号の「俳句」は7月31日(日)、10月号の「川柳(宿題「ひととき」)は8月31日(水)、11月号の「短歌」は9月30日(金)までに応募(いずれも必着)してください。宛先は上記をご覧ください。

とんだばやし演奏家協会

とんだばやし演奏家協会は、本市在住のヴァイオリニスト奥田 章子さんが、「今まで演奏活動や後進の指導にあたってきて、地元の地域に何か貢献したい」との思いから、クラシック音楽を地域の皆さんに気軽に楽しんでいただく機会を増やし、地域にクラシック音楽を普及することを目的に、22年に発足しました。

現在、さまざまな演奏活動をしている演奏家7人が参加しています。

●子どもたちに生の演奏を

同協会が発足してまず始めにした活動は、市立小学校へ生の演奏を届けることでした。

すばるホールが実施している、次代を担う子どもたちの芸術体験事業「音楽アウトリーチ事業」に取り上げられ、市内小学校で、小学4年生を対象とした生演奏付きの音楽出前体験授業を実施しました。

子どもたちにできるだけ近くで演奏を見たらうため、1クラスずつ実施される授業は、45分間という短い時間で「これまで、楽器の

習い事をしていない子どもたちが音楽に興味をもつように「吹奏楽部に入部す



音楽出前体験授業の様子

るなど楽器を始めるきっかけの一つになれば」と、音楽の先生やすばるホールのスタッフと相談しながら少しずつ内容を変え、28年3月末までに170クラス、5235人の子どもたちが体験しました。

**授業の主な内容**

- ①楽器や曲、作曲者の説明などトークを交えながらの演奏 (約30分)
- ②全員にヴァイオリンなどの楽器体験 (約10分)
- ③演奏とリコーダー、子ども共演 (約5分)

●身近に気軽にクラシック音楽を

また、同協会では、「身近に気軽にクラシック音楽を…」というコンセプトのシリーズコンサート「私の街でクラシック」を、年3回、すばるホールで開催しています。

定員80人という、演奏者を近くから鑑賞できる会場でのコンサートは、演奏を聴くだけでなく、楽器や曲、作曲者のことなどレクチャーを交えた内容になっていきます。また、なるべく違う楽器を取り上げるなど、クラシック音楽に親しんでいた、ただけるよう、毎回趣向を凝らしたコンサートを心掛けています。

次回の公演は11月23日(祝)に、子どもも大人も楽しめる打楽器を使ったコンサートを予定していますので、皆さん、ぜひご来場ください。

すばるホール(☎25)0222

いきいき 介護予防

●介護予防って？

「要介護状態とならないように、またはそれ以上進行しないように、前もって防ぐこと」です。

では、いつ「介護予防できた」と結論づけられるのでしょうか。

これは短期的な結果ではなく、元気なときから継続的に予防活動に取り組む、少しは不自由があつたとしても、最期のときにご家族とご本人がそう感じることができた結果であるといえます。ということとは、介護予防は、何歳から始めても早すぎること遅すぎることもないといふことがいえます。

●本市の取り組み

「地域みんな笑顔はつらつ大作戦〜みんな元気・もつと元気・ずっと元気」をキャッチフレーズに、身近な場所ですぐに介護予防・健康づくりに取り組めるような体制づくりを進めています。自分の健康は自分で守るけれど、自分だけが元気でいるのではなく地域みんな元気になるよう、というものです。

一人では続かない人や遠くの場合までは出掛けにくい人も、地域で声を掛け合ってみましょう。ますます健康に過ごしましょう。

●介護予防サポーター

介護予防や健康づくりがなぜ必要で、そのために日頃の生活で何を心掛けて、どんな運動をすればよいのかを地域の皆さんに伝えるボランティア「介護予防サポーター」を養成しています。

20年度から介護予防サポーターの養成を実施し、現在約30人が活動しています。介護予防サポーターになって、地域の介護予防・健康づくりのお手伝いをしてみませんか。

8月2日(火)より、「介護予防サポーター養成講座」を開催します。詳しくは、25ページをご覧ください。

●地域介護予防教室

介護予防サポーターが支援している地域介護予防教室は、現在市内に21カ所あります。

お近くにある介護予防教室に参加してみようと思われ人、また新たに自分のまちで介護予防教室をやってみたいと思われる人は、気軽にお問い合わせください。



介護予防教室の様子

高齢介護課(内線189)